

まちとこぐひと Town and Cyclist



「自転車文化タウンづくりの会」発足!

自転車市民団体「自転車文化タウンづくりの会」がいよいよ発足しました。去る5月23日、西淀川区のあおぞらビルの会議室で行われた設立総会で、設立趣意書、会則、などの事項について発起人が承認され、正式に発足の運びとなりました。

会には、交通や環境の問題から自転車に関心を寄せる学生や研究者たち、これまで何らかのかたちで自転車の活動の関わってこられた人たち、さらに自転車の問題に日々向きあっておられる行政の方たちと、いろんな領域の人たちが合流しました。

当会は、さまざまな可能性と問題を抱える自転車への取り組み方を巡って、昨年9月の準備会立ち上げ以来、自転車ツアーや交流イベントなどを開催しながら、会のありかたを模索してきました。そのなかで、自転車について、少しでも多くの立場や関心を持った方々が関与できるよう四つの活動を柱として掲げることが固まりました。①自転車市民の輪を拡げてゆく、②自転車利用環境を見直す調査・研究、③自転車を活かしたまちづくりに向けて行動する、④活動精化の社会還元。これらの柱に沿いながら、会員が自ら企画立案し、各々が主体的に参加するかたちで活動を推進してゆくことになります。

発足早々ながら、このように自転車に関する広範な課題について、包括的に取り組みを掲げる市民団体は現時点でも貴重な存在ではないかと、僭越ながら自負するところです。尤も、それは形式における自負である以上、これが真に評価に値するものになるかは今後の活動にかかっているのは言うまでもありません。

どうか今後とも私たちの活動にご注視いただき、できればご支援をいただきつつ、自転車を取り巻く様々な課題に有意義に働きかけられる団体でありたいと願っております。当会をよろしく願い申し上げます。



活動報告 自転車まち巡りツアー

「自転車まち巡りツアー」は、その名のとおり自転車によるツアーで、今年の1月から実施しています。基本は大阪府内の日帰り、郊外・市街を問わず提案次第でどこでも走ります。ただ普段よりも少し、自転車のあり方について意識しながら走ります。遠乗りに慣れた方だけでなく、普段は生活用途でしか自転車に乗らないような方たちの参加も期待します。概ね月1回開催、自転車に乗れて持参できる方ならばどなたでも歓迎、コース企画提案も大歓迎です。

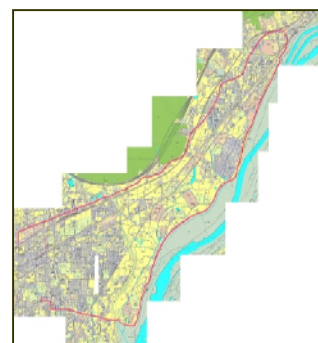
●「西国街道と高槻城下町の名残をたずねる」

4月19日(土)



平安京と西国を結んだ古道が江戸時代に「西国街道」と呼ばれるようになり、参勤交代の大名行列もこの街道を辿ったという。ボク自身、東寺近くの羅城門跡から大山崎あたりまで街道を走った事があるが、今回のコースは未走の高槻～山崎区間。水曜日に手に入れたばかりの中古スポルティフ（最近では聞かれない呼び名です）に跨り、ツアーに参加すべく一路高槻へ。

JR高槻駅前に集まった総勢10名を2班に分けてスタート。街道沿いの史蹟を辿る。まず楠公父子訣別のエピソードで知られる桜井駅跡。すぐ隣のJR新駅に電車が到着すると流れるのは、サントリーオールドの懐かしいCMメロディ。ダウンドゥビ、ドゥビドゥダ……。ゆるやかに蛇行する街道沿いには古い木造民家が断続的に並び、往時の姿を留める。クルマも時折通るが、格好のサイクリングコース。好天の土曜とあって、史蹟散策とおぼしきハイカーのグループをいくつも見かける。ポイント毎に休憩し、見学と歓談。名水で知られる、後鳥羽上皇ゆかりの水無瀬神宮から、油を奉る離宮八幡宮に油を使わない自転車ツアー一行が訪れる。淀川右岸河川敷に出て西へターン、鶴殿の葦原へ。所用のため



やむなく、ここのゴルフコース脇でボクは一同と別れ帰路に就く。

京都へは片道2時間弱、一同とは2時間（休憩込）。ドロップハンドルをこんなに長時間握るのは20年ぶり、ポジションのセットがまだびったり合っていないせいか、掌と股間にちょっと痛みが残った。

【報告：辻野隆雄さん】

行程：JR高槻駅北口→（西国街道）→桜井駅跡→水無瀬神宮→離宮八幡宮→（淀川右岸堤防道）→鶴殿の葎原→城跡公園と周辺

参加：10名 当日担当：川内

●「新緑のサイクリングツアー」5月17日（土）



こじんまりと始まった今回は、そのぶん、臨機にコースを調整しながら走った。臨機すぎて、自転車を担ぎ上げて進んだところもあった。3人とも建築に関わるか、もしくは建築好きのためか話がよく合った。走っている時間と、話している時間とどちらが長かったか。それぞれが関わっている地域について、貴重な話を耳にすることができた。

一般に、左岸に偏りがちな淀川のサイクリングだが、右岸もかなり走れるようになっているというのが今回の収穫。 【報告：川内義行】

行程概略：大阪市役所前→（大川右岸）→毛馬閘門→（淀川左岸）→長柄橋→（淀川右岸）→菅原城北大橋→城北公園

参加：3名 当日担当：笹井

●「住之江・住吉サイクリングツアー」6月28日（土）

午後1時半、住吉公園に集まり、大阪市南西部・住之江・住吉を巡る自転車ツアーが、小雨の中スタートしました。レンタサイクル組は、住吉公園事務所で自転車を借りて出発しました。今回の参加者は計10名でした。

昭和初期からある長屋を見て、住之江公園へ。綺麗に整備されていて、まさに都会のオアシスでした。

住吉公園と住之江公園は共通のレンタサイクルがあり、どちらで借りても返すことができます。また料金は無料です。



その後は、工場地帯や貯木場のある平林方面へ。水の上に浮いているフローティングハウスを見て、大和川の方へ出ました。

大和川沿いは、自転車で走りやすい道が続いています。この道で東へ向かいました。

次に行った場所は、加賀屋緑地。加賀屋新田会所跡があり、立派なお屋敷と庭園がありました。大阪市内とは思えないような、静かさと優雅さがありました。

雨宿りも兼ねた休憩をしていると、無事に雨もやんだので、出発しました。

そして、紀州街道沿いにある、霰（あられ）松原に行きました。かつては、このあたりまで海岸で、白砂青松の名勝地だったそうです。万葉集の歌碑もありました。

安藤忠雄さん設計の住吉の長屋を見て、スタート地点の住吉公園へ。

小雨の降る中でしたが、無事ゴールしました。あまり知られていない（？）、大阪市内の歴史や名所を巡ることができました。

今回のコースは幹線道路と併走する箇所がとても少なく、とても自転車で走りやすかったです。企画担当の西尾さん、お疲れ様でした。【報告：長洲扶幹さん】

行程概略：住吉公園→戦前洋風長屋群→フローティングハウス→（大和川右岸）→加賀屋緑地（加賀屋新田会所跡）→（紀州街道）→大和橋→霰松原→住吉の長屋→住吉公園

参加：10名 当日担当：西尾



※自転車まち巡りツアーは秋から再開の予定です。開催案内は当会ブログを参照ください。

活動報告 自転車寺子屋

「自転車寺子屋」は、自転車について知りたいこと、疑問に思っていることを存分に話し合おうという場です。概ね月1回開催、取り上げてほしいテーマ、また講師としてレクチャーしたいなど、提案ありましたらどしどしお寄せください。



●第1回 6月25日 pm 7:00～ 於：あおぞらビル

会員の越智さんを進行役に始まった第1回は、6月に施行されたばかりの改正自転車ルールについての話しが主になりました。自転車の交通安全ルールブック（改正に対応済）のパンフレットに沿って、「これはどういうことなのか」、「矛盾している部分があるのではないか」など議論し、気づけば10時前と、約3時間も経っていました。

- ・自転車のルールが、車道を自転車で走る人を前提に作られていない
- ・「自転車通行指定部分」とは何なのか
- ・車道を左側走行していて、前から自転車が逆走してきたらどちらによければいい？
- ・今回の改正で、状況により横断歩道上を自転車が通行できることになったのを初めて知った（パブリックコメントの時点で明かされていたか？）

など、書ききれないほどの意見や指摘が出されました。

また、始まったばかりの寺子屋の進め方をどうするか、寺子屋で出た意見や疑問点を発信するのはどうかといった課題も出されました。

●第2回 7月23日 pm6:30～ 於：あおぞらビル

今回も越智氏を進行役に始まった第2回は、自転車の走る場所についての話を主に進めました。引き続き警察庁のパンフレット「自転車の交通安全ルールブック」（改正対応済）に沿って、「一般の交差点」「自転車横断帯のある場合」「バス停のある場合」などがとりあげられました。会合の内容は追って何らかの形で公表する予定です。

また今回も引き続き、会の進めかたについて意見が交わされました。会であがった話や知識をもとに、現状の矛盾点をまとめたらどうか、警察に問い合わせてはどうか。といった意見が出されました。

自転車寺子屋は、まず自転車について存分に知識と意見を交換しあって、「知る」ことに専念し、その力を次のステップとしての教育につなげようという考えがあります。とはいえ、すぐにでも次の行動につなげた

いというのも、会の成果をいちはやく社会と共有しようという、会員や参加者の強い意志の表れでもあります。引き続き、議論を継続しくのが大切かと思います。

会員紹介

会長の新田です。待ちに待った本会が発足し、感無量です。これも皆様のおかげです。自転車を通し社会に対し批判のこころを持ちつつ、ひと、まち、そして自転車を愛する人たちの network power のおかげです。これを Social Capital ならぬ、Cycle Capital(CC) と言ってもよいかもしれません。この CC を豊かにすることが、本会の大きな目的のひとつになるでしょう。大人も子供も高齢者も、女性も男性も、みんなが安心して自転車乗りを楽しめるまちにしたいと思います。ところで、私事ですが、中学時代片道 6km を自転車で通学しました。そして、皆勤賞を獲得。小学時代は扁桃腺が腫れてよく休んでいたのですが、中学では見違



ましよう。(新田保次)

えるように強くなりました。今思えば、これも自転車力ですね。健康と文化に満ち溢れたまちづくりにむけて走りだし

書籍紹介

自転車本の出版は近年活況を呈しているのだけれども、案の定というか、そのわりに大阪が取りあげられることはなかなかありません。そんななか、船場の綿業会館を拠点に文化催事や出版物の企画を手がける企画グループ「榎ワークルーム」が、大阪の自転車本を出してくれました。肩肘はらずに大阪の街なかや郊外を自転車で愉しんでみましょうという、大阪についてはありそうでなかなかなかった内容です。なのでロードバイクでしっかり走りこむようなコースはここにはありません。土地の人たちがさりげなく愉しんでいるようなコースが、飲食系のお店情報とともに、街なか・郊外を問わずよくピックアップされてあります。巻末のレンタサイクル店リストなど、関連情報もコンパクトにまとめられて重宝しそうです。当会メンバーも微力ながら企画に協力しました。

「大阪自転車ホリデー」
ワークルーム 編著
光村推古書院 刊
111頁 ¥1575 (税込み)
榎ワークルームHP
<http://www.workroom.co.jp/index.html>



設立趣意書と役員

設立趣意書

自転車は、子供からお年寄りまで広範に普及し、生活する上でかけがえのないものになっている。そして、最近では、燃料を消費しない、排気ガスを出さない、といったように、環境にもやさしい乗り物として、また、人々の健康づくりに貢献する乗り物として、その役割が見直されている。

さらに、自転車は、子供が初めて手にする乗り物であり、歩く段階から自転車の段階に移ることにより、飛躍的に行動圏が広がり、人、自然、まちとのコミュニケーションを通じ、発達に貢献する。大人にとっても自転車の速度は下界とのコミュニケーションを保てる速度となっている。

このように自転車は、優れた利便性、環境性、健康性、そして人間発達性を有しているといえる。私たちは、この力を”自転車力”という。

しかしながら、わが国の現状をみると、自転車の歩道走行により、自転車対歩行者の事故が急増し、歩行者からは危険な乗り物としてみられている。一方、車道走行時には、自動車との接触事故の危険性と隣り合わせであり、ドライバーからは迷惑な乗り物と思われている。また、駅前や商店街などにおける乱雑な放置も歩行者の通行の妨げとなり、自転車駐輪対策が重要な課題となっている。

このような自転車が起こす問題点を解決する方策を探るとともに、”自転車力”を生かした、人づくり、生活づくり、まちづくりはどうあるべきか、また、自転車自身の魅力化のために何をなすべきかを、つまり、「自転車力を生かした文化に満ちるまち（自転車文化タウン）づくり」のあり方について、市民、事業者、行政、教育・研究者たちが連携し、情報交流、調査研究等を通じ、伴に考え、提案し、具体の地域において実践する、行動する会として、「自転車文化タウンづくりの会」の設立を目指す。

発起人（五十音順）

青木洋介、浅井真二、石井琢也、井上恵弘、岡山翔、小平智子、越智克己、片岡法子、蒲田雄輔、川内義行、久保広恵、笹井浩、辻野隆雄、中村博司、長洲扶幹、新田保次、馬場明男、藤江徹、藤本敦、松井克行、松村茂樹、矢羽田薫、山田章博

役員人事

会 長 新田 保次
 幹事長 藤江 徹
 幹 事 浅井真二、小平智子、越智克己、蒲田雄輔、川内義行、笹井浩、馬場明男、松村茂樹（計8名）

交通死亡事故発生状況 状態別 2008年年初～8月末

| | 大阪府 | | | 京都府 | | | 兵庫県 | | |
|------|------|------|--------|------|------|--------|------|------|--------|
| | 発生件数 | 前年増減 | 構成比 | 発生件数 | 前年増減 | 構成比 | 発生件数 | 前年増減 | 構成比 |
| 自動車 | 18 | -14 | 13.5% | 19 | 2 | 32.8% | 43 | -11 | 33.9% |
| 二輪車 | 51 | -1 | 38.3% | 10 | 3 | 17.2% | 15 | 6 | 11.8% |
| 原付※1 | | 0 | | 4 | -3 | 6.9% | 14 | 1 | 11.0% |
| 自転車 | 29 | 0 | 21.8% | 3 | -4 | 5.2% | 15 | -8 | 11.8% |
| 歩行者 | 35 | -15 | 26.3% | 21 | 2 | 36.2% | 40 | -14 | 31.5% |
| その他 | 0 | 0 | 0.0% | 1 | 1 | 1.7% | | 0 | 0.0% |
| 合計 | 133 | -30 | 100.0% | 58 | 1 | 100.0% | 127 | -26 | 100.0% |

| | 3府県合計 | | | 全国(年初～7月末)※2 | | |
|------|-------|------|--------|--------------|------|--------|
| | 発生件数 | 前年増減 | 構成比 | 発生件数 | 前年増減 | 構成比 |
| 自動車 | 80 | -23 | 25.2% | 982 | -156 | 35.9% |
| 二輪車 | 76 | 8 | 23.9% | 284 | -18 | 10.4% |
| 原付※1 | 18 | -2 | 5.7% | 238 | -21 | 8.7% |
| 自転車 | 47 | -12 | 14.8% | 364 | -28 | 13.3% |
| 歩行者 | 96 | -27 | 30.2% | 868 | -158 | 31.7% |
| その他 | 1 | 1 | 0.3% | 3 | -4 | 0.1% |
| 合計 | 318 | -55 | 100.0% | 2,739 | -385 | 100.0% |

※各府県警、警察庁発表資料(速報)より

※1、大阪府では、原付の件数は自二輪に繰入

※2、全国件数は各府県より一月遅れます

活動経過 (●: 当会主催 ◎: 他団体との共催 ○: 当会以外の主催)

| 事項 | 開催日時 | 会場/集合地/主催 |
|---|---------|--|
| ●自転車まち巡りツアー | 4/19(土) | |
| ○アースデイ ♪LOHAS CYCLE ECO LIVE / 自転車発電ライブ | 4/20(日) | 扇町公園 (大阪市) / ロハスサイクル実行委員会 |
| ●自転車まち巡りツアー | 5/17(土) | 新緑のサイクリングツアー |
| ●設立総会 | 5/23(金) | あおぞらビル3F |
| ●第1回自転車寺子屋 | 6/25(水) | あおぞらビル |
| ○京都・自転車街角セッション (第1回) | 〃 | ゼスト御池 (御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課 |
| ●自転車まち巡りツアー | 6/28(土) | 住之江・住吉サイクリングツアー |
| ○京都・自転車街角セッション (第2回) | 7/22(月) | ゼスト御池 (御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課 |
| ●第2回自転車寺子屋 | 7/23(水) | あおぞらビル |
| ◎自転車マップづくりキックオフ・ツアー | 7/26(土) | 生国魂神社/おおさか自転車マップづくりの会 |
| ○京都・自転車街角セッション (第3回) | 8/25(月) | ゼスト御池 (御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課 |
| ●第3回自転車寺子屋 | 8/27(水) | あおぞらビル |
| ○堺 自転車のまちづくり 交流会 | 8/31(日) | 堺市役所本館3F 会議室 (最寄駅: 南海高野線堺東駅) / 堺 自転車のまちづくり・市民の会 |
| ●幹事会 | 9/9(火) | あおぞらビル5F |
| ◎自転車文化タウンづくりの会、第1回研究会 | 9/12(金) | キャンパスポート大阪 ルームE (大阪駅前第2ビル 4F) / 交通まちづくり学研究会との共催 |
| ●第4回自転車寺子屋 | 9/17(水) | あおぞらビル |
| ○さかい自転車デー in アリオ鳳 | 9/20(土) | アリオ鳳1F/堺 自転車のまちづくり・市民の会 |

行事予定 (●: 当会主催 ◎: 他団体との共催 ○: 当会以外の主催)

| 事項 | 開催日時 | 会場/集合地/主催 |
|------------------------|---------------------|--|
| ○京都・自転車街角セッション (第4回) | 9/25(木) pm2:30~ | ゼスト御池 (御池河原町交差点地下) / 京都市建設局 自転車政策課 |
| ○北河内自転車道ポタリング to 山田池公園 | 10/18(土) | am10:00 までに大日駅前南東交差点に集合 / 大阪府 枚方土木事務所(問合せ:072-844-1331) |
| ●幹事会 | 10/27(月) pm7:00~ | あおぞらビル5F |

各地・全国のごき

- ◇京都府で幼児のヘルメット着用が義務化 昨年10月に公布・施行された「京都府自転車の安全な利用の促進に関する条例」のうち、未施行だったヘルメット着用に関する規定が、4月1日より施行された。自転車に同乗する幼児のヘルメット着用が義務化された。なお、罰則規定はない。
- ◇御堂筋に自転車専用レーン? 側道をなくして巾広の歩道に整備。国土交通省近畿地方整備局の構想として新聞等で5月に報道された。
- ◇自転車問題検討委員会が提言 大阪府が昨年設置した審議機関「大阪市自転車交通問題検討委員会」(委員長: 日野泰雄) が5月1日「今後の自転車交通問題の施策展開に関する提言」と題する提言を公表した。現状認識として、ハード整備については行政努力は既に限界だとし、ソフト面の充実を訴えている。提言は、免許・補償などの法制度の整備、駐輪場の附置義務条例の導入、自転車の問題について議論する場の設定など大きく4つから成る。
- ◇改正道路交通法施行「教則」30年ぶりの改訂 昨年公布された道路交通法の自転車に関する規定が6月1日より施行。改正道路交通法の施行に伴って、これと同時に「交通の方法に関する教則」および「交通安全教育指針」の規定が改定された。30年ぶりの改正となる。
- ◇「つるむDEおおさか」 CASE まちづくり研究所 (寺川政司代表) が企画提案していた自転車による町づくりイベント「つるむde大阪」が、「水都2009」関連イベントとして採択された。
「自転車という視点から各地域のまちを再発見し、水辺をテーマにした自転車マップ作りやまちづくりイベントと連携。水都2009のイベントには、中之島のイベント広場まで各地から集結し、まちとルートを共有します。最終的には、地域の自転車問題の解決と自転車文化の発展を図ることや大阪の一大イベントとしての「ツール・ド・大阪」への展開を目指す」
このイベントには、当会も何らかの形で関わってゆきますので、追って報告してゆきたく思います。

- ◇兵庫県でタンデム車の一般路通行が解禁 「兵庫県道路交通法施行細則」が7月1日より改正・施行された。携帯電話やヘッドフォンの利用禁止（罰則付）と合わせて、二人乗り自転車（タンデム車）の一般道走行を認めた点が注目されている。
- ◇梅田周辺を人中心の都市空間に 経済団体の関経連が、大型開発の進行する梅田周辺の都市イメージを提言した「大梅田グランドデザインの提案」と題した報告書のなかで示した。JR大阪駅の周辺約1^{km}を「大梅田」とし、域内の通過交通の排除とこれに連携した駐車場の設置、ループエコバス導入などにより歩行者を主体とした都心部の形成を目指すとともに、レンタサイクルシステムの積極導入も盛り込んでいる。
- ◇3人乗り自転車の要件公表 7月24日、警察庁は条件付きで解禁するとしている3人乗り自転車の要件と基準、評価方法を公表した。要件は強度、制動性能、駐輪時の転倒防止、フレームの剛性などの6項目からなる。

編集後記 Editorial

『まちとこぐひと』第1号をご覧ください。はじめまして、そして、ありがとうございます。また会の方々にはまず、所期に比して大幅に発行が遅れたことをお詫びしなければなりません。たいへん申し訳ありません。

さて、たかが自転車とはいいいながら、自転車のニュースは存外よく耳にします（どちらかと言えば、残念な内容の方が多いようですが）。けれども、自転車に関するポジティブな、とりわけ各地域で町づくりの観点からなされている取り組みは、今のところその大多数がローカルで地味なもので、なかなか大手メディアが取り上げるには至りません。一方で、行政や海外の動きも、事の大小に関わらず、トピック的な扱いに終始するように見受けられます。

自転車を見直す動きはこれからも確実に広がるだろうと当会は見ますが、自転車に関する情報は、まだまだ限られた人たちの間だけで流通する向きが強いようです。

当誌は自転車の市民団体である「自転車文化タウンづくりの会」のニューズレターなのですが、当誌を通じて、ブログだけでは載せきれない当会の活動のみならず、会の周辺で起こっているさまざまな動きも伝えられたらと思っています。自転車について起こっている出来事を共有する手段のひとつになればと願っています。

もちろん、当会は発会したばかりで、当会の活動も、把握する情報も、自転車を取り巻く動きの中のごく一部だと思われれます。また当誌の制作は、ご多聞に漏れず予算なし専属なしの手弁当で、当面十分な体制がとれないことは残念ながら明らかなのですが、こうした制約のなかでも、出来る限りの手立てを尽くす姿勢が肝要だと心得ます。そのためにも、当誌のあり方についてなど忌憚なき（かつ温かい）ご意見とご提案を賜りたい次第です。どうか、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「自転車文化タウンづくりの会」

□会員数

一般会員:36名、学生会員:4名

メンバーリスト登録数:90アカウント

□賛助会員

(株)キックテック

中村博司（自転車博物館館長）

総合調査設計(株)

(株)ワークルーム

CASE/まちづくり研究所

(財)公害地域再生センター（あおぞら財団）

.....順不同、敬称略

ご入会の案内

お申込資格

- 当会の設立趣旨をお読みいただき、ご賛同いただくことがお申し込みの資格となります。
- 他に必要な資格は一切ありませんが、できれば会の活動においていただくことをお勧めいたします。

お申込方法

- 入会申込書を当会ホームページよりダウンロード
- 必要事項をご記入の上、事務局・あおぞら財団までご送付下さい。
- 年会費は、事務局（あおぞら財団）で現金でお支払い頂くか、下記の銀行口座にお振込み下さい。
- 賛助会員お申込の方は、あおぞら財団までご一報下さい。

年会費・口座

一般会員 2,000円

学生会員 1,000円

賛助会員 5,000円/1口

東京三菱UFJ銀行 店番:006 口座番号:4563916

口座名:自転車文化タウンづくりの会 幹事長 藤江徹

『まちとこぐひと Town and Cyclist』 創刊号

発行日:2008年9月12日(概ね隔月発行)

発行所:「自転車文化タウンづくりの会」

事務局:公害地域再生センター(あおぞら財団)内

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4F

Tel 06-6475-8885 Fax 06-6478-5885

e-mail: webmaster@aozora.or.jp

ホームページ:

http://sky.geocities.jp/cycletown_osaka/index.html/

ブログ:

<http://blog.goo.ne.jp/cycletown-osaka>

※本誌記事の転載にあたっては、事前に事務局までご連絡のほどお願いいたします。